科目ナンバリング	U-LAS14 10006 PJ68						
授業科目名<英訳>	生物学実習II ［自然史コース］ Experimental Practice in Biology II [Natural History Course]			担当者所属職名・氏名	地球環境学舎 教授 西川 完途 地球環境学舎 教授 市岡 孝朗 人間・環境学研究科 助教 佐藤 博俊 人間・環境学研究科 特定助教 原 壮大朗 人間・環境学研究科 生物学実習授業担当教員		
群	自然科学科目群			分野(分類)	生物学(総論)	使用言語	日本語
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	2コマ	授業形態	実習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水3・4	配当学年	主として1・2回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

植物および小動物の生態、小動物の形態を研究する際に必要な調査手法・技法の基礎を、野外における調査、室内での作業を実践することを通じて体得する。また、得られたデータの解析をおこない、統計的な解析法を学ぶ。

[到達目標]

野外で野生生物を扱うための基本的な心得・技術を習得し、生態学的なデータを取ることの重要性と苦労などの基本的事項を理解できるようになり、形態観察の初歩とスケッチ技法の習得をして、データを統計的に処理するために必要な知識を身につけることができるようになる。

[授業計画と内容]

京都近郊や京都大学近辺に広がる山林や京都大学構内にある緑地を実習地として、昆虫、植物、菌類、小型脊椎動物などの生物群集に関する野外調査をおこなう。また、サンプルやデータの処理・解析をおこない、得られた結果について考察する。
対象とする材料や実習内容は実習地における生物の発生状況などをみて、順序を変更する可能性がある。

第１回：ガイダンス（科目についての説明）
第２回：送粉昆虫の採集（花と訪花性昆虫の観察）
第３回：節足動物のピットフォール採集と土壌アリ類採集
第４回：外生菌根菌の多様性と生態
第５回：種子食昆虫の多様性調査
第６回：セミの抜け殻採集・同定と統計実習
第７回：脊椎動物の解剖と生体模型作成
第８回：植物園実習
第９回：吉田山・植物採集と標本作製／種数推定
第１０回：木材腐朽菌・落葉分解菌の多様性と生態
第１１回：菌類の子実体形態の多様性
第１２回：脊椎動物の外部形態
第１３回：脊椎動物の骨格系の観察I
第１４回：脊椎動物の骨格系の観察II
第１５回：フィードバック

[履修要件]

受講希望者は、後期の授業開始日の初回までに、吉田南２号館３階生物実習室前の掲示板の指示に従い登録を行うこと。受講定員を超える受講申込があった場合は無作為に抽選を行う。

スタート時点では高校レベルの生物学の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、

生物学実習II ［自然史コース］(2)へ続く↓↓↓

生物学実習II　［自然史コース］(2)

授業内で適宜補足する。

[成績評価の方法・観点]

実習への参加状況とレポートの内容で評価する。
詳細は初回授業で説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
KURENAIの実習資料（https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/218863）を用いることに加えて、授業中に追加資料を紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外の時間を使ってのレポート作成は必要である。

[その他（オフィスアワー等）]

野外での実習を行うことが多いので、野外での活動に適した服装（長ズボン等、スカートなどは不可）、歩きやすい靴、飲み水などを各自で準備して実習に臨むこと。
おそらく、何回かは、酷暑のなかで野外作業をすることになるので、実習参加に向けて十分な体調・健康管理をおこなってください。
学生教育研究災害傷害保険に加入の必要あり。
２～５回は、最大で片道５００円程度の交通費を要する場所での実習を計画している。この場合の旅費は履修生個人で負担していただくことになる。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部、理学部